

# 好評発売中!



## 続日本100名城 131 村上城

16世紀初頭に、本庄氏が築城。永禄11年(1568)、上杉謙信に反旗を翻し、1年に亘り籠城したが、講和している。慶長3年(1598)村上頼勝、元和4年(1618)に堀直寄が入封し、天守を持つ近世城郭の体裁が整った。正保元年(1644)本多忠義が入城、当時の絵図には、3重天守、渡櫓、多間櫓が本丸に、四ツ門、御鐘門の多間櫓などが二の丸に描かれている。以後、松平(結城松平)氏、榊原氏、本多氏、松平(大河内松平)氏、間部氏と城主が変遷、享保5年(1720)には内藤氏が入り、以後9代150年存続し、明治維新を迎えている。

所在地	新潟県村上市二之町
別名	舞鶴城、本庄城
築城年代	16世紀初頭
築城者	本庄氏
主要城主	本庄氏、榊原氏、本多氏、松平氏、榊原氏、間部氏、内藤氏
指定文化財	国指定史跡
現存建造物	—
再建建造物	—

### 本丸跡航空写真

城は、標高135mの臥牛山山上要害部と山麓居館部に分かれており、江戸時代以降は山麓部に御殿・政庁機能が置かれ、山上部は、北から、三の丸・二の丸・本丸が一列に並び、高さ約8m程の石垣に囲まれている。本丸に天守台、出櫓、乾櫓、翼櫓の跡、二の丸に御鐘門、四ツ門の跡、三の丸に玉櫓、鞍櫓の跡が良好な形で残る。四ツ門は、七曲り道と搦手道、三の丸と二の丸へ続く道が交差する十字路に建つ、四方向に扉のある変則的な櫓門であった。

◎(公財)日本城郭協会

希望小売価格

350円(税込)

日本 100 名城